

9月21〜30日に「秋の全国交通安全運動週間」があったが、取り締まりがあるから大人しく走る…、では意味がないと太田さんは考える。都内では最近、自転車とクルマの交通事故が増えて社会問題になっているが、果たして自転車ユーザーの交通マナーだけが問題なのか？

そもそも事故を減らすには、なにが必要なのかを考えてもらった。

大 学生になる娘から自転車を

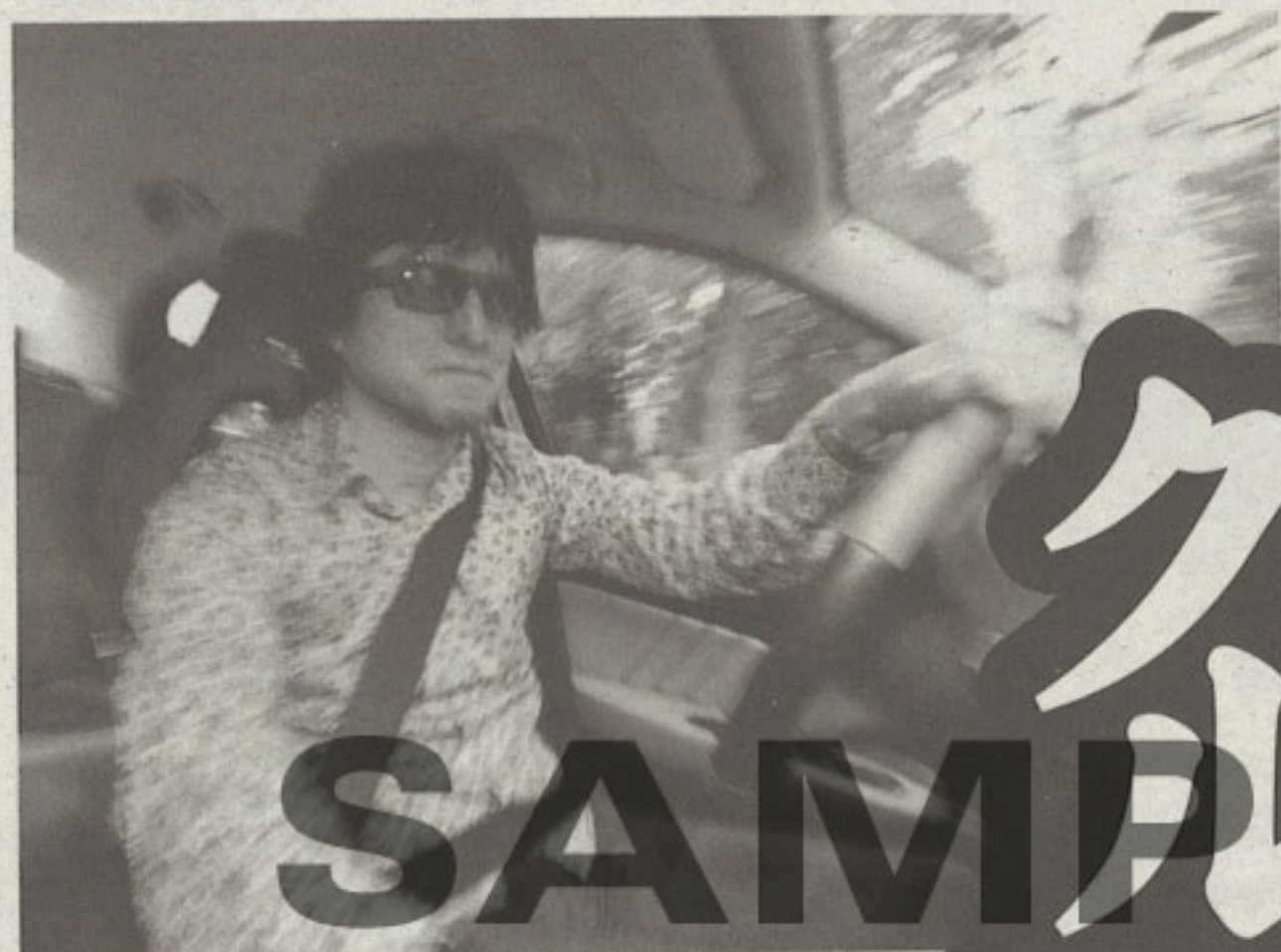
買って欲しかったと言われて困っている。スポーツタイプが欲しいのだそうだ。オレとしては、ママチャリで近所を乗るくらいならいい。でも、スポーツタイプで遠出して幹線道路を走ってほしくない。

「自転車に乗るくらいだったらバイクにすれば」と言ったら、こゝろは妻が猛反対だ。「バイクに乗せてケガしてもいいの？」と。いったいバイクと自転車、どちらが危ないのだろうか。今月はちょっとお堅いネタだが、「交通安全」について考えてみた。

バイクと自転車では、どちらが危ないのか？

都内における死者数は自転車が約20%、バイクが約25%で、バイク事故の方が多い。ただしバイクは若気の至りのな自爆事故が約20%と最も多い。逆に言えば、運転技術を身につけて道交法を守って走れば、そんなに危なくないんだと思う。

それより朝の山手通り（環状六号線）を見てくれよ。片側二



いつもクルマをばに

■文：太田哲也

車線の左車線を通勤自転車が並列で走って占拠して、右側車線のクルマとスピード競争だ。赤信号になるとクルマは止まるが、多くの自転車は無視して通り過ぎていく。きつと都内ではクルマやバイクよりも自転車のほうが目的地に早く着くね。

一時停止は停まらない、車道も歩道も縦横無尽、道交法無法地帯化した都内をクルマで走るのは相当怖いよね。どこからやってくるかわからない自転車にビクビクして走っている。せめて車道を走るなら道交法は守ろうよ！と言いたい。

現在、俺の会社は横浜市なのだが、都内に事務所があったときは、オレもいきがって自転車通勤したことがあった。自転車目線に立つと、道交法を守ろうとしたって、幹線道路に駐車しているクルマがあれば、こちら右にはみ出すしかない。そんな時は、後ろから来るクルマにはねられると怖いから、歩道が空いていれば、そちらを走りたくなる。

自転車に乗ったらクルマが危



▲歩道が広い場合には、自転車走行帯が設けられているところもある。しかし、写真の自転車ユーザーはそこを走らず、歩道を走ってしまった。自転車のユーザーのマナーが問われる！

ないなと思うし、クルマに乗ると自転車の傍若無人ぶりに閉口する。両者相容れない関係性だ。交通事故全体に占める自転車関与率は、全国で20%前後、都内では35%。自転車事故は事故扱いにならないケースもあるだろうから、実態はもっと多いだろう。圧倒的に都内は自転車事故率が高いのだ。

都内の自宅から仕事場の横浜に向かう際、都県境の多摩川を渡るとあまり自転車が危ないと感じなくなる。なぜか？ 東京都民のマナーが特別に悪いのか。そんなわけではないだろう。

マナーというなら愛知県の交通事故死者数ワースト1は11年も続いている。理由はいろいろあるのだが、確かに名古屋ドライバークルマのマナーは良くないように思う。ウインカーとか出さないし…。でも自転車事故は愛知がワースト1ではない。

つまり横浜や愛知などの他府県はまだ自転車とクルマが共存できる余地があるということ。

しかし、狭くて混雑して駐車スペースのない東京は、自転車と自動車共存できる環境にないということではないか。無理があるから、マナー違反を助長させてしまうのではないか。

万が一の時にはほぼクルマが悪者になる

混雑した状況で、クルマの脇

を猛スピードでかすめていく自転車。事故の際の保険適用ではあくまでも責任の比率によるのだが、一般的には事故となればクルマが悪者になると自転車は思っているのかも。それとも事故は自分には起きない、守ってもらえるとも考えているのかな。でも、守りたくても守れないこともあることを知ってほしい。

◀写真のように対向車線の車道を、しかもケータイを握りしめながら走っているというマナーが悪い自転車ユーザーもいる。しかし、自動車との事故になると自動車側が悪者になるケースが多い(写真はイメージ)



交通マナーが悪い輩にイライラするのはなく、
そういう人たちも守ってあげようとして
お互いをリスベクトして走ることが大切!

9月21日から30日までは「秋の交通安全週間」だったが、今、オレは自転車に乗らないから常にドライバー目線なので、自転車の取り締まりをしつかりやってくれ、と思った。娘に自転車に乗ってもらいたくないのは、危ないだけでなくそちら側に行つてくれるな、早くこちら側(ドライバー側)にこい、という気持ちがあるのかも。

と言つても自転車もかわいそう、ではある。幹線道路に停まったクルマがあれば、つい歩道に入りたくもなるだろう。朝の通勤ラッシュでは、クルマよりも自転車を飛ばしたほうが速いし、赤信号を無視して歩道も走れば遅刻を免れられる。少しくらい大丈夫だろう、みんなもそうしてるし。そんな気持ちで働くのも人情だ。

娘に関してはそんなリスクを冒さないで、自転車に乗らずに二輪の免許を取って道交法を正しく学んでほしいと思う。そう言えば娘は四輪の教習所に申し込んでいたな。入学金をオレが払った覚えがあるゾ。だったら

安全なクルマに乗れよ!

● ● ●
自転車に気をつけてもらいたいことはたくさんあるが、自転車ユーザーはおそらくホリデーオートを読んでいないだろう。となれば、我々にできることは何かということを考えてみたい。

● ● ●
オレが勧めるのは「間違い探しクイズ」だ。みんなもすでにやっているかな。オレの場合は運転している時にクイズさながらに「このバスの脇は危ないな」とか、「あそこの塀から自転車が一時停止を無視して飛び出してくるかも...」「あいつは赤信号無視でもやってきそうだから要注意」「フラフラしている自転車がいたら、「あ、スマホだな」などと予想しながら走っている。

● ● ●
以前、右折の際、あの自転車は横断歩道の手前で停まりそうにないなと思ったら、案の定突っ込んできて前のタクシーとぶつかった。注意を払っていると思えるようになるものだ。運転がうまくなれば余裕が生まれる。予測していれば見えることがある。余裕が生まれれば安全につながる。

● ● ●
そもそもそんなに他人を信用しないことだ。どんな人間が運転しているかわからない。耳にタコの安全運転の基本だが、「○○だろう」ではなく、「今日

は○○かもしれない...」と思うことが第一歩。

● ● ●
「Tetsuya OTA ENJOY & SAFETY」ドライビングレッスン」では「Injured ZERO」のテーマを掲げている。「このスクールの関係者や参加者は公道において事故ゼロを目標にする」

● ● ●
サーキットにおいては、前方だけに集中しがちだが、バックミラーをよく見て周囲に注意を払って、相手の存在を意識していれば接触事故は起らない。

● ● ●
公道について言うなら、スマホをイジっていて前を見ていない横断歩道の歩行者や信号で停まらない自転車など無茶なヤツはいくらでもいるけれど、そういう輩にイライラするのではなく、またそんなものはいないと安全神話を信じるのでもなく、まずは危ない人がいっぱいいると認識した上で、そういう人たちも守ってあげよう、ある意味存在自体をリスベクトしようと思つて走ることが大切だ。

● ● ●
実はこれは98年の事故で燃えさかるフェラーリの中からオレを救出してくれた山路慎一選手が、うちのスクールに来て話してくれたことだ。

● ● ●
安全運転は自分とは違う他者を受け入れること。これに尽きるところ。

●10月18日(土)、ツインリンクもてぎにて「マツダドライビングアカデミー with Tetsuya OTA」が開催されます。マツダ車オーナーを対象にドライビングテクニックの向上を図るレッスンで、今回参加費用(ランチ付)は、「ベーシック・クラス」が1万5000円、「アドバンス・クラス」が2万円と、マツダのサポートにより通常より安く設定されている。詳細はホームページでご確認下さい。 ■<https://sportsdriving.jp/>